

2023年度 自己評価書

学校法人 北海道キリスト教学園
認定こども園 函館ちとせ幼稚園

1. 園の教育目標と教育方針

教育目標	明るく元気で優しい子（神に愛されている子ども）	
教育方針	キリスト教の愛の精神に基づいた教育・保育をするなかで、教師は幼児のもっている可能性を十分伸ばすように手助けをする。自立するために家庭との連絡をしつつ保育方針に不一致のないよう教育・保育をし、幼児の豊かな心と体の成長を育む。	
キリスト教の愛に根ざした保育		
・愛の心を育てる	・遊びの中で学ぶ	・社会性を育てる
・健康な体づくりをする	・自然に親しむ	・知育、集中力を養う

2. 本年度重点的に取り組む具体的な目標や計画

①子どもにとって、今大切なことは何かを教職員で話し合い行事を計画する。各学期（保護者の感想、意見を含）に教職員で振り返りを行い、年度末の総合的評価をし、次年度の重点目標と計画を立案し遂行する。
②子ども一人ひとりが心身共に豊かに成長ができるよう、寄り添いつつ日々の教育・保育をすすめる。
③教職員は教育計画に沿って日々の教育活動で意思の疎通をとりながら教育・保育をすすめる。
④一人ひとりの育ちを理解し、子どもの主体性が育つようにする。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

※ A…十分達成 B…おおむね達成 C…改善を要する

評価項目	評価	取り組み状況
幼稚園教育要領を理解し、園の教育理念と教育方針のもと、保育の計画を立案し日々の保育を進める。	A	教育理念に基づき、教育課程の編成及び保育計画の策定を行い計画は現実の保育に沿うよう具体的に立案した。キリスト教保育誌を読み感じたことや学んだこと自園での実践に活かせることなどを付箋に書いて掲示した。園長が付箋に書かれた事柄についてのコメント添付し共通理解をすることができた。
子どもの育ちを理解し、実態を的確に把握し、教職員が共通の理解をもつ。必要な手立てを考え子どもにあった援助をする。	A	保育教諭は保育を省み記録を行い、次の日の円滑な保育ができるよう努めた。ミーティングで、園全体の子どもたちの様子を話し合い、育ちに必要な援助と手立てを考え、指導案の作成に反映させるとともに、ICTツールを活用し会議にでられなかった保育教諭も会議内容を確認でき、追記なども活用し共通理解を図ることができた。
園全体の教育成果と課題、目標の達成の度合いを学期ごとに振り返り、保育の推進をはかる。	A	各クラスや学年で目標としてきたことを学期毎に話し合い達成状況を確認し教育の再構築をする。また各行事終了後には成果と次年度に向けての課題を明確にし、計画を立案している。
健康な体と基本的生活習慣の自立にむけ保護者との連携をとる。	A	基本的生活習慣が身につくよう保護者と連携をとり年齢や個別に合わせ援助する中で排泄の自立へと繋がった子どもが多かった。
子どもたち同士が遊びを通して工夫し、考え、協力できるような環境をつくる。	A	子ども自らが工夫して遊び、個々が友だちと協力して遊べるような環境づくりを心がけた。色々な素材や廃品などを準備し、子どもが自ら選べる環境を整えた。

<p>防災教育。避難訓練と緊急時の保護者との連絡方法の確立。</p>	<p>A</p>	<p>今年度も各家庭へ緊急時の園児引き渡しカードを作成し、緊急連絡方法の徹底を行った。園バス送迎中の緊急時のマニュアルの確認、置き去り防止装置の設置や全園児がSOSボタンを押せるよう訓練を行った。地震が起きた時の体制などはシェイクアウトにも参加した。避難訓練は毎月行い、様々な想定を考慮し訓練を行い、改善点を踏まえ次の訓練に活かし緊急避難体制をとることができた。</p>
<p>園の教育目標や方針、保育の計画を保護者へ発信する。</p>	<p>A</p>	<p>園便りなどで教育方針や取り組みを折に触れ手紙で発信し、相互理解ができるよう工夫してきた。ホームページの『保育のスケッチ』や毎週クラスごと配信する『保育ドキュメンテーション』でタイムリーな情報を発信することができた。</p>
<p>特別支援教育を必要とする子どもたちへ発達に添った保育をすすめる。</p>	<p>A</p>	<p>支援を必要とする子どもが増えている中で、新しくできた支援室を有効活用し一人ひとりの心に寄り添った保育ができた。保護者への対応は来園していただき成長や課題を話し合えた。今後も更に学びを深め一人ひとりの心に寄り添った援助をしていきたい。</p>

4. 今年度の総合的な評価結果

結果	理由
<p>A</p>	<p>教職員が日々の保育の中で子ども一人ひとりの育ちを共通理解し保育をすすめた。保護者への情報発信は必要に応じて、園便り、保育ドキュメンテーション、ホームページで伝えることができた。新園舎を活用し学年での活動や交流を行い学年全体で子どもの興味関心を広げられるよう環境を設定し、子どもの声をひろい主体的に遊べるよう計画を立案し保育に活かすことができた。親子遠足はあかまつ公園で行い全体や学年での活動や学年で弁当も食べることができ親睦を深め好評だった。昨年の行事を分散して行事を行って良かった点を踏まえ、今年度もクラスごと時間差での行事を行い保護者からも良い評価だった。園庭が完成しのびやかに遊び、畑を使った食育も再開することができた。新しくできたテラスではアサガオを育て観察をしたり、シャボン玉や水遊びなどをしたりと有効活用ができた。参観日にはキッズコーディネーションや触れ合い遊びなどや普段の保育をしていることを参観していただき保護者からはとても良かったとの声をいただいた。各学期末、終了後のお便りの発信により、意見や感想を求め、更に保育の質の向上を図っていきたい。</p>

5. 今後取り組むべき課題と改善の方策

課題	具体的な取り組み方法
<p>子育ての支援の充実</p>	<p>0歳児対象のすくすく広場の利用者が増えているため、子育て支援室での開催の回数を増やし、少子化や核家族が進む中で悩みを抱えている保護者や安心して子どもを遊ばせたい保護者のニーズに合わせた子育て支援の充実を図る。</p>
<p>保護者への連絡と対応</p>	<p>保護者の園に対する保護者アンケートに記入された点ではメール連絡網により信頼感が構築できた。保育ドキュメンテーションが好評だったため、よりタイムリーな子どもの様子の配信をしたり、手紙やお知らせもメール連絡網で情報を発信したり積極的に改善をすすめる。</p>
<p>環境改善</p>	<p>より良い環境の中で保育・教育ができるようまた教職員の業務改善の取り組みを更に充実できるようにすすめる。</p>
<p>多様化のなかでの教職員のチームワークを考える</p>	<p>0歳から就学までの一貫した保育。教育に力を入れるとともに職員間の話し合い、更に個別の話し合いの時をもち、同じ方向性で子ども主体の保育を考え、子どもの声をひろい遊びを広げられるよう今後も取り組んでいく必要がある。</p>

6. 函館ちとせ幼稚園運営委員会の意見

- ・保護者の方たちの信頼関係を受け、これだけのパーセンテージを受けているのは、素晴らしい、新園舎になって、その中で、先生たちも子どもたちも心が豊かになっている。先生たちもきめ細やかになさっていることは嬉しい。笑顔溢れる園が基本的に一番大切なことで、いいことです。
- ・防災教育というところで、最近、地震が頻繁に起こっている。地震で避難する時には、うまく安全に誘導できることは大切なので、しっかりと訓練を重要視していかなければならない。
- ・園の運営委員より良好という意見をいただいた。

7. 函館ちとせ幼稚園第三者委員の意見

時代や保護者の方のニーズに沿った、きめの細かい保育がされていると感じました。
待ったなしの教育の現場で、生き生きとした園児の皆さんの笑顔が感じられ、行事を回復する努力にも頭が下がりました。

子供たちの初めての社会生活の場であることを意識した、先生方の取り組みが素晴らしいです。
人生は楽しいことばかりではありません。これからの荒波にうまく乗っていけるようにサポートする保護者との連携を、この調子で進めていって頂きたいと感じました。